



「旧」3つの数字、3つの言葉

3月15日(水) 3学期終業式校長講話より

1学期から数えて登校日数205日目、明日で令和4年度が終わります。
前回の校長講話は、八坂小中学校という新たな学校になるについて、「新」というテーマでしたね。

今日は、「旧」古いこと、昔のことについて話します。

今日、皆さんに知ってほしい数字を3つ挙げます。全部八坂中学校に関係した数字です。

22 76 200 です。

一つ目の22は、昭和22年1947年 八坂中学校が開校した年です。

第2次世界大戦が終結した、日本の立場から言えば敗戦した年は知っていますか。

1945年です。そのわずか2年後に中学校ができました。

次の76は開校して76年めという意味です。

最後の200というのは、お金です。200円です。

これは、校長室で見つけたこの冊子です。中身を見ると、昭和23年7月当時のPTA会長さんのお名前で、寄付を募っています。

「社会の進展に伴い、教育技術面においても、進歩向上を来たし、学習能率を上げるためにも、学校施設の充実を計り、科学的な機器、器具を利用しなくてはならなくなってまいりました。当校の現状においては、他校と比較し、種々不備不足の点多く、先生方も何かとご苦心のことと思います。(中略) このたびの目標は一戸当たり200円程とし」とあり、各地域ごとにお名前と寄付額が書いてあります。

記録のお名前を数えてみたら、477人の方のお名前がありました。200円300円といったお金が寄付されています。合計で108800円集まっていたんです。八坂中学校が開校した次の年、終戦から3年しかたっていない年、このころの200円がどのくらいの価値があったのか調べてみました。

消費者物価指数でいうと、昭和22年の200円は現在の3800円程に当たります。多くの家庭が4000円の金を学校のために寄付してくださったのです。私は、今から75年前の方々のお名前、ひよっとしたらほとんどの方はこの世にはいないかもしれません。その方々が、100円200円のお金を寄付してくれたという事実本当に胸を打たれました。お金も大事ですが、「学校のため、子どものため」という熱い思いがこの古い冊子にはたくさん詰まっていると思います。学校というのは、地域の方たちの願いがあつてこそ、できるのだと思います。この3月、閉校となる学校のニュースがたくさん流れています。その中で、この八坂中学校が八坂小中学校という名前が残りこの場所で学校が残ることは、大

22
76
200



大変ありがたいことです。この学校を支えて下さった、終戦直後に100円200円を寄付して下さった皆様の気持ちも含めて、学校はあります。みんなの心のどこかに覚えておいてほしいと思います。

さて、次にこのキーワード覚えていますか。1学期の始業式でお話ししました。

「顔 柱 宝」

1年生はこの学校の宝です。君たち二人が、少ない言葉ながら自分の考えを言い合い、深く学んでいる姿がとても印象的でした。君たちが成長する姿は、学校全体の喜びであり宝でした。ありがとう。

2年生はこの学校の柱です。すべての活動で、3年と1年をつなぎ、活動の中心となってくれました。やさか人間塾で、生徒会で、経験や知識を活かしながら先をみて推進していく力となりました。昨日の生徒総会や三年生を送る会も楽しかったですね。ありがとう。

3年生は、学校の顔でした。運動会、やまびこ祭、やさか人間塾、生徒会活動、活動を計画し推進し、八坂中学校で学ぶとこんなに頼もしい3年生になるんだということを、みんなに見せてくれました。部活動でも、すばらしい成績を残してくれました。ありがとう。

宝
柱
顔

八坂中の宝、柱、顔がそろった充実した1年間でした。ありがとうございました。

登校日はあと1日、3年生は力強く旅立ってください。
私たちは、しっかりとお祝いし、見送りたいと思います。